



成田空港南R.C. 会長テーマ  
小さな親切

思いやり

例会日時 毎週木曜 12:30点鐘  
(最終例会 18:30点鐘)  
例会場 中国ダイニング富士屋



事務局 〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6 URL <http://www.narita-airport-m-rc.jp>  
TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178 E-mail [info@narita-airport-m-rc.jp](mailto:info@narita-airport-m-rc.jp)

第2790地区ガバナー 中村 博亘 第6分區ガバナー補佐 四之宮 由己

平成21年8月20日発行 NO.1900 第2028例会 会長 鈴木 恭一 幹事 古西 弘和 会報担当 伊藤 元雄

## 例会報告(平成21年8月20日)

点 鐘 会 長 鈴木恭一  
ソ ン グ 「それでこそロータリー」  
唱 和 「四つのテスト」  
会 長 挨拶 会 長 鈴木恭一  
会 務 報 告 会 長 鈴木恭一  
幹 事 報 告 幹 事 古西弘和  
プ ロ グ ラ ム

### お客様紹介

交換留学生(アメリカ) ニーナ・シュベリさん  
成田国際高校 平山 未咲さん  
未咲さんお母様 平山 みどり様

### 卓話

地区会員増強・拡大委員長 菅井直秀会員  
地区職業奉仕委員 富 一美会員

素として、新会員の勧誘、現会員の維持、及び新クラブの結成を呼びかけています。会員増強とは、退会防止が本音であります。退会防止をして、会員増強するという事だと思います。皆様の日頃の増強に対する意識の量と小さな情報の協力が大きな成果となり、会員増強につながりますので、是非ご協力をお願いします。

本日は、地区会員増強・拡大委員会 菅井直秀委員長に、ロータリー最大の件案である「会員増強について」の卓話をいただくことになっております。

よろしくをお願いします。

## 会務報告

1) 9月15日 東金50周年記念式典及び祝賀会に出席のお願いと、確認を本日までにお願いします。

## 幹事報告

### ①例会変更のお知らせ

- ・大網R.C.  
8/26(水) 夜間移動例会  
点鐘18:30 きこり
- ・大多喜R.C.  
8/25(火) 夜間移動例会  
点鐘18:00 ハーブアイランド

②ガバナー事務所より青少年交換派遣高校生募集要項が届いております。

③米山梅吉記念館より米山梅吉記念館創立40周年記念式典のご案内と館報が届いております。

④ハイライトよねやま114号2009年8月13日発行と『友』インターネット速報2009年8月18日No.393・No.394が届いております。

⑤週報受領クラブ

- ・多古R.C.

## 会長挨拶



皆さん こんにちは。

本日はお客様として、当クラブより短期交換学生としてアメリカに留学した横芝光町の平山未咲さんと、お母さんの平山みどりさん、アメリカより交換留学生のニーナ・シュベリさんにご来訪をいただいております。心より歓迎を申し上げます。皆様方には後程簡単なスピーチをお願いしたいと思います。

今月は『会員増強及び拡大月間』です。

国際ロータリークラブでは、会員増強の3つの要

## 卓話

### 「会員増強について」



地区会員増強・拡大委員長 菅井 直秀

会員増強で一番大切な事は、受け入れ側のクラブ会員がロータリー理念をしっかりと学んでいると言う事です。

ロータリーは人生哲学であり、例会は勉強会であります。ロータリーに入会して品格の向上、自己研鑽、超我の奉仕等、ロータリーの理念を勉強できれば、入会の喜び、経営哲学も知る事になり、ロータリーの素晴しさがわかって素晴らしい人生に希望が持てる筈です。

ロータリーを理解した会員のみが会員増強できるという事です。会員増強できない会員はロータリーの理念を勉強する必要があります。

### 「会員増強について」

職業奉仕委員の立場から



地区職業奉仕委員 富 一美

皆さんこんにちは。

本日は、会員増強・退会防止にかかわる卓話でございますので、メインは菅井会員増強委員長で、私の方からは付け足しの部分として会員増強に関係したことを職業奉仕委員の立場で「クラブリーダーが常に会員の意識を変える努力をする」ということをポイントに、改めて皆さんと考えてみたいと思います。

会員増強・退会防止に関する一連の手法・手順等につきましては、クラブ会長要覧や会員増強・退会防止委員会要覧等の冊子の方に詳しく書いてございますので、読んでいただければ十分わかることですから、その辺のハウツーもののお話は割愛させていただきます。

会員増強・退会防止に関しましては、何にしても会員の意識の問題が大きく拘ってくると私は思います。一例と致しまして、私どものクラブを例に

取り上げますと、最盛期には約60名の会員数を擁しておりましたが、数年前に30名以下に会員数を減らす状況に至りました。そこで大変な危機感を持ちまして、「このままではいけない」と、現クラブ研修リーダーでございます菅井さんを中心として、数名の会員で奮起しまして、会員の質と量の問題も含めて、「もう一度原点に立ち返ってみなで考えよう」ということになりました。そのことが切っ掛けとなりまして、大きな気付きを得ることができ、その気付きによりまして、2006年度から3年連続で平均的に純増4～5名を達成することが出来ました。

その気付きとはどういうことかと申しますと、クラブ会員の物心両面の満足を得ることが出来ていなかった要因の洗い出しにより、考え方や意識の改革の必要性でありました。

一つの要因としまして、奉仕の思想・理念を理解しないまま理念の裏付の無い実践活動を行ってしまっていたということでもあります。つまり、奉仕の理念の研鑽を怠って、奉仕活動である社会奉仕や国際奉仕の活動ばかりに目を向けてしまって専念をするあまり、ロータリー運動の本質である職業奉仕を忘れてしまったり、勝手な解釈をされておられる会員が多く見受けられました。結局そればかりをやっている、基本を忘れてしまって、それがロータリーの魅力を失わせ、不満足の大きな原因に成っていたということでもあります。

言葉を変えて申しますと、ロータリーの第一義である自己研鑽の奉仕、つまり自己研鑽をさせて貰う為に、本来ロータリーから奉仕の機会として与えてもらって奉仕活動である社会奉仕や国際奉仕等の活動をするを、奉仕の理念の裏付けがなくて、意味を良く理解していないものですか、苦痛若しくは面倒に感じてしまって、いやいや活動をしている会員が多くみられたということでもあります。必然的に会員としての満足感（物心両面の満足感）、そして達成感や会員としての存在意義を感じ取れないでいたということは否めない事実であったと思います。

皆さんご存知の通り、ロータリーの綱領が、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という文言で始まっておりますが、これはロータリーの根幹が職業奉仕にあることを意味しているわけです。数多く存在する奉仕クラブの中で、職業奉仕の理論付けと実践を活動主体とするクラブは、ロータリークラブ以外には存在せず、言い換えれば、職業奉仕団体であることが、ロータリークラブの特徴であるはずですが、例え方が適当かどうか分かりませんが、職業奉仕を基本問題だとすれば

社会奉仕や国際奉仕は応用問題みたいなものだという例えがございます。

最近では、ロータリーが単なるボランティア活動を行う団体と思われるほど、その方面のみが特化されてよく広報をされており、これもやっぱり間違った理解の原因となっているような気が致します。

又、最近ロータリー活動も本当に多面的に成ってまいりまして、新しい会員には、ロータリーとは何であるのか余程よく説明をしませんとわかり難いと思いますので、ロータリーに経験の深い、ベテランロータリアンによる簡明な説明が伴いませんと、ロータリーが何であるか分からないまま、或いは終わってしまうことにもなりかねないという危惧をしております。

先ほど、菅井会員増強委員長からロータリーにとって会員増強は、「ロータリアン最大の奉仕であり、責任である」と、そして、ロータリーの最大の財産は「ロータリーの会員である」ということを忘れてはならないというお話がございました。おそらくどちらのクラブでも大方の会員の皆さんは、会員増強が奉仕という観念とはかけ離れたものと思いをされておられるのではないかと思います。じつは、私どものクラブも恥ずかしながらそうでありました。この意味を紐解きますと、どのような組織でも人を育て後継者を育成していくことが出来なければ、組織そのものが存続をしませんし、機能もしないということは紛れもない事実であります。

しかし、皆さんロータリーはそれだけではないはずで、もっともっと大きく影響することは、地域社会に一人でも多くのロータリーの奉仕の理念を持った善良なロータリアンを増やして、その心を高め、人格を高めたロータリアン一人一人が各々の生業や地域社会に良い影響を与えるということは、必然的に地域社会が良くなるということの意味しているわけであり、従いまして、会員増強は立派な奉仕であります。そして、それに伴いもう一つ大事なことは会員であるロータリアンが会員候補者を入会に導くことは、どんな善行よりも立派な善行であり、立派な利他行（徳を積む）であると言えます。

キリスト教の教えに「人に与えよ。さらば汝に与えられん」、日本では「情けは人のためならず」、中国の『易経』では「積善の家には必ず余慶あり」と言います。

ロータリーの「奉仕の哲学」に基づき、他人のために良かれかしでの行為、このような善行、利他行を積み重ねることは、必ず自分の為にしたことになる、自分に返って来るんだということ。これは「因果応報の法則」ということでございます。

仏教には「思念は業をつくる」という教えがございます。これは結果には必ず原因があるということです。少しでも善き事を行い、善き因を蓄積していくような生き方が大切であり、善き行為を続けることによって、人格は磨かれて行きます。これは「世のため人のために尽くす」と言う、まさに利他行でもあり、もっとも重要なことでもあります。

つまり、言い方を変えますと「考え方や意識を変えれば行動が変わります。行動が変われば習慣が変わります。習慣が変われば人格が変わります。人格が変われば運命が変わります。」「善き思い」を持つと運命が好転するという現象は、人を助けるような美しい思いが宇宙の法則に叶っているということ、まず念頭に置き、是非皆さんがその思いを持って、質の高い優秀な人材をロータリーへ導き入れて頂きたいと思っております。

これが、グローバルな視点から考えますと、世界中のロータリークラブが同じ意識を深めたとしたら、もっともっと素晴らしい展開が開かれて世界平和に繋がることと思っております。これにより、ロータリーにとっての会員増強が「ロータリアン最大の奉仕であり、責任である」こと。そして、ロータリーの最大の財産は「ロータリーの会員である」ことの意味がお分かりになられたことと思っております。私達ロータリアンは、良き評論家でもなく、良き解説者でもなく、良き実践者でなければなりません。昔のことわざに「知ってても遣らないのは知らないのと同じ」とか「論語読みの論語知らず」とか申しますが、クラブリーダーが常に会員の考え方や意識を良い方向へ導く努力をするということが大切ではないかと思います。



続いて、当クラブがクラブ全体の考え方や意識を変える手法等としてCLP導入について皆さんと振り返ってみたいと思っております。

まず、クラブリーダーが、常に自分のクラブがどのような状態かを知ることが必要であろうと思っております。つまり、ロータリーの運営を考える時に、自分のクラブはどんな特徴を持っていて、何処に長所があり、又、何処にや欠点があるのか、そして、その問題個所をどのように修正したらよいのかということです。

ところが、その問題個所を的確に、そしてまた客観的に評価する方法というのは実に難しいこととございまして、科学的或いは計量的物差しになる基準と言うものがロータリーには無かったのではないかと

と思います。それが為に、毎年、“例年並み” “当たらず触らず”の基本方針が中心であったことは否定できないことであります。

又、ロータリーに“変えなければならぬものと、変えてはならないもの”があるという常習的な言い回しの中に“変えて波紋を起こしたくない”というある種の詭弁が入っていたように思えてならないのは私だけではなく、会長経験者の皆さんならば一様にそう思われたのではないのでしょうか。

先日行われました会員増強・職業奉仕合同セミナーで、講師の江崎柳節PGがジョークでおっしゃられておりましたが、「ロータリー殺すにや刃物は要らぬ、例年通りにすれば良い」、それから「ロータリー奉仕が無くてバッチだけ」、誠に見事に皮肉ったものであり、また的を得たものであります。

私は、CLPはロータリーの組織運営におけるISOのようなマネジメントシステム的な要素があると思います。この一つのファクター（要素）としてクラブ並びに各委員会が継続的改善、つまりPlan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（見直し）を繰り返し行うことによって、次のクラブ活動や委員会活動の見直し・反映が確実にでき、そして、常にスパイラルアップ（螺旋状に向上）するところにあります。

もっと簡単に申し上げますと、常に遣ったことに対して評価、見直しを繰り返して、常に向上させようとする方向へ導く方法（仕組み）と言う事になります。つまり、クラブの全会員が物心両面の満足を得るための手段でもあります。

その結果、当クラブで得たものは、①まず会員の皆さんが、変化に適応するべく、その変化を受け入れようとする気持ちに大きく意識が変わったということです。それに続いて、②意識の変化により、会員相互の絆が強くなりまして、クラブを良くして行こうという気運が高まるにつれて、この機に乗じて、これからのクラブの将来を見据え、進歩、発展を願い、クラブ名称の変更をすることの採択をし、クラブ名称を変更する運びとなるまでになったことです。それに続いて、③当クラブ区域限界の山武市、芝山町、横芝光町の1市2町の市長、町長さんが当クラブの気概を感じてくれて名誉会員に就任してくれたこととございました。従いまして、常に朝令暮改の精神で全会員が積極的にロータリー活動に参加することにより、そして、クラブ会員の皆さんに何度も以下のようなことを申し上げてまいりました。

CLPのねらいは、クラブの体質強化、クラブの活性化であること。活性化、体質強化には様々な取り組みがありますが、待ちの姿勢では活性化にはならないこと。やはり奉仕に係る親睦や活発な会員間のコミュニケーションにより、会員の皆さんの達成感や満足感が得られなければ、いつしかメッキが剥がれてしまい、元の黙阿弥になってしまうこと。「継続は力なり」であり継続的改善を繰り返し繰り返し行うことが大事で、常に積極的な姿勢を持ち続けることを忘れないで頂きたいということ。

以上の様なことが、当クラブがクラブ全体の考え方や意識を変える手法等としてとったCLP導入前後の流れではなかったかと思えます。これからも、鈴木会長を中心として常に積極的な姿勢を持ち続け、積極的なロータリー、活性化したロータリー、クラブリーダーが育成されるロータリーを築いていただきたいと思います。

## ■ ニコニコボックス

内田裕雄君・富一美君・鈴木恭一君・押尾正康君  
・倉石昌治君・橋本貴志君

…ニーナさんようこそいらっしゃいました

Nice to meet you

小林定雄君・大塚克人君

…仕事多忙でありありがとうございます

本日計	8,000円
累計	172,000円

## ■ 出席報告



例会日	会員数	出席	MU	%
8月20日	47	36	11	100.0

☆ 欠席をしたらメイクアップをしましょう ☆



本日のお客様 平山未咲さんとニーナ・シュベリさん



成田空港南R.C. 会長テーマ  
**思いやり**  
小さな親切

例会日時 毎週木曜 12:30点鐘  
(最終例会 18:30点鐘)  
例会場 中国ダイニング富士屋



事務局 〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6 URL <http://www.narita-airport-m-rc.jp>  
TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178 E-mail [info@narita-airport-m-rc.jp](mailto:info@narita-airport-m-rc.jp)

第2790地区ガバナー 中村 博亘 第6分区ガバナー補佐 四之宮 由己

平成21年8月20日発行 NO.1900 第2028例会 会長 鈴木 恭一 幹事 古西 弘和 会報担当 伊藤 元雄

## 例会報告(平成21年8月20日)

点 鐘 会 長 鈴木恭一  
ソ ン グ 「それでこそロータリー」  
唱 和 「四つのテスト」  
会 長 挨拶 会 長 鈴木恭一  
会 務 報 告 会 長 鈴木恭一  
幹 事 報 告 幹 事 古西弘和  
プ ロ グ ラ ム

### お客様紹介

交換留学生(アメリカ) ニーナ・シュベリさん  
成田国際高校 平山 未咲さん  
未咲さんお母様 平山 みどり様

### 卓話

地区会員増強・拡大委員長 菅井直秀会員  
地区職業奉仕委員 富 一美会員

素として、新会員の勧誘、現会員の維持、及び新クラブの結成を呼びかけています。会員増強とは、退会防止が本音であります。退会防止をして、会員増強するという事だと思います。皆様の日頃の増強に対する意識の量と小さな情報の協力が大きな成果となり、会員増強につながりますので、是非ご協力をお願いします。

本日は、地区会員増強・拡大委員会 菅井直秀委員長に、ロータリー最大の件案である「会員増強について」の卓話をいただくことになっております。

よろしくをお願いします。

## 会務報告

1) 9月15日 東金50周年記念式典及び祝賀会に出席のお願いと、確認を本日までにお願いします。

## 幹事報告

### ①例会変更のお知らせ

- ・大網R.C.  
8/26(水) 夜間移動例会  
点鐘18:30 きこり
- ・大多喜R.C.  
8/25(火) 夜間移動例会  
点鐘18:00 ハーブアイランド

②ガバナー事務所より青少年交換派遣高校生募集要項が届いております。

③米山梅吉記念館より米山梅吉記念館創立40周年記念式典のご案内と館報が届いております。

④ハイライトよねやま114号2009年8月13日発行と『友』インターネット速報2009年8月18日No.393・No.394が届いております。

### ⑤週報受領クラブ

- ・多古R.C.

## 会長挨拶



皆さん こんにちは。

本日はお客様として、当クラブより短期交換学生としてアメリカに留学した横芝光町の平山未咲さんと、お母さんの平山みどりさん、アメリカより交換留学生のニーナ・シュベリさんにご来訪をいただいております。心より歓迎を申し上げます。皆様方には後程簡単なスピーチをお願いしたいと思います。

今月は『会員増強及び拡大月間』です。

国際ロータリークラブでは、会員増強の3つの要

## 卓話

### 「会員増強について」



地区会員増強・拡大委員長 菅井 直秀

会員増強で一番大切な事は、受け入れ側のクラブ会員がロータリー理念をしっかりと学んでいると言う事です。

ロータリーは人生哲学であり、例会は勉強会であります。ロータリーに入会して品格の向上、自己研鑽、超我の奉仕等、ロータリーの理念を勉強できれば、入会の喜び、経営哲学も知る事になり、ロータリーの素晴しさがわかって素晴らしい人生に希望が持てる筈です。

ロータリーを理解した会員のみが会員増強できるという事です。会員増強できない会員はロータリーの理念を勉強する必要があります。

### 「会員増強について」

職業奉仕委員の立場から



地区職業奉仕委員 富 一美

皆さんこんにちは。

本日は、会員増強・退会防止にかかわる卓話でございますので、メインは菅井会員増強委員長で、私の方からは付け足しの部分として会員増強に関係したことを職業奉仕委員の立場で「クラブリーダーが常に会員の意識を変える努力をする」ということをポイントに、改めて皆さんと考えてみたいと思います。

会員増強・退会防止に関する一連の手法・手順等につきましては、クラブ会長要覧や会員増強・退会防止委員会要覧等の冊子の方に詳しく書いてございますので、読んでいただければ十分わかることですから、その辺のハウツーもののお話は割愛させていただきます。

会員増強・退会防止に関しましては、何にしても会員の意識の問題が大きく拘ってくると私は思います。一例と致しまして、私どものクラブを例に

取り上げますと、最盛期には約60名の会員数を擁しておりましたが、数年前に30名以下に会員数を減らす状況に至りました。そこで大変な危機感を持ちまして、「このままではいけない」と、現クラブ研修リーダーでございます菅井さんを中心として、数名の会員で奮起しまして、会員の質と量の問題も含めて、「もう一度原点に立ち返ってみんなで考えよう」ということになりました。そのことが切っ掛けとなりまして、大きな気付きを得ることができ、その気付きによりまして、2006年度から3年連続で平均的に純増4～5名を達成することが出来ました。

その気付きとはどういうことかと申しますと、クラブ会員の物心両面の満足を得ることが出来ていなかった要因の洗い出しにより、考え方や意識の改革の必要性でありました。

一つの要因としまして、奉仕の思想・理念を理解しないまま理念の裏付の無い実践活動を行ってしまっていたということでもあります。つまり、奉仕の理念の研鑽を怠って、奉仕活動である社会奉仕や国際奉仕の活動ばかりに目を向けてしまって専念をするあまり、ロータリー運動の本質である職業奉仕を忘れてしまったり、勝手な解釈をされておられる会員が多く見受けられました。結局そればかりをやっている、基本を忘れてしまって、それがロータリーの魅力を失わせ、不満足の大きな原因に成っていたということでもあります。

言葉を変えて申しますと、ロータリーの第一義である自己研鑽の奉仕、つまり自己研鑽をさせて貰う為に、本来ロータリーから奉仕の機会として与えてもらって奉仕活動である社会奉仕や国際奉仕等の活動をするを、奉仕の理念の裏付けがなくて、意味を良く理解していないものですか、苦痛若しくは面倒に感じてしまって、いやいや活動をしている会員が多くみられたということでもあります。必然的に会員としての満足感（物心両面の満足感）、そして達成感や会員としての存在意義を感じ取れないでいたということは否めない事実であったと思います。

皆さんご存知の通り、ロータリーの綱領が、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」という文言で始まっておりますが、これはロータリーの根幹が職業奉仕にあることを意味しているわけです。数多く存在する奉仕クラブの中で、職業奉仕の理論付けと実践を活動主体とするクラブは、ロータリークラブ以外には存在せず、言い換えれば、職業奉仕団体であることが、ロータリークラブの特徴であるはずですが、例え方が適当かどうか分かりませんが、職業奉仕を基本問題だとすれば

社会奉仕や国際奉仕は応用問題みたいなものだという例えがございます。

最近では、ロータリーが単なるボランティア活動を行う団体と思われるほど、その方面のみが特化されてよく広報をされており、これもやっぱり間違った理解の原因となっているような気が致します。

又、最近ロータリー活動も本当に多面的に成ってまいりまして、新しい会員には、ロータリーとは何であるのか余程よく説明をしませんとわかり難いと思しますので、ロータリーに経験の深い、ベテランロータリアンによる簡明な説明が伴いませんと、ロータリーが何であるか分からないまま、或いは終わってしまうことにもなりかねないと危惧をするところがございます。

先ほど、菅井会員増強委員長からロータリーにとって会員増強は、「ロータリアン最大の奉仕であり、責任である」と、そして、ロータリーの最大の財産は「ロータリーの会員である」ということを忘れてはならないというお話がございました。おそらくどちらのクラブでも大方の会員の皆さんは、会員増強が奉仕という観念とはかけ離れたものと思いをされておられるのではないかと思います。じつは、私どものクラブも恥ずかしながらそうでありました。この意味を紐解きますと、どのような組織でも人を育て後継者を育成していくことが出来なければ、組織そのものが存続をしませんし、機能もしないということは紛れもない事実であります。

しかし、皆さんロータリーはそれだけではないはずで、もっともっと大きく影響することは、地域社会に一人でも多くのロータリーの奉仕の理念を持った善良なロータリアンを増やして、その心を高め、人格を高めたロータリアン一人一人が各々の生業や地域社会に良い影響を与えるということは、必然的に地域社会が良くなるということの意味しているわけであり、従いまして、会員増強は立派な奉仕であります。そして、それに伴いもう一つ大事なことは会員であるロータリアンが会員候補者を入会に導くことは、どんな善行よりも立派な善行であり、立派な利他行（徳を積む）であると言えます。

キリスト教の教えに「人に与えよ。さらば汝に与えられん」、日本では「情けは人のためならず」、中国の『易経』では「積善の家には必ず余慶あり」と言います。

ロータリーの「奉仕の哲学」に基づき、他人のために良かれかしの行為、このような善行、利他行を積み重ねることは、必ず自分の為にしたことになる、自分に返って来るんだということ。これは「因果応報の法則」ということでございます。

仏教には「思念は業をつくる」という教えがございます。これは結果には必ず原因があるということです。少しでも善き事を行い、善き因を蓄積していくような生き方が大切であり、善き行為を続けることによって、人格は磨かれて行きます。これは「世のため人のために尽くす」と言う、まさに利他行でもあり、もっとも重要なことでもあります。

つまり、言い方を変えますと「考え方や意識を変えれば行動が変わります。行動が変われば習慣が変わります。習慣が変われば人格が変わります。人格が変われば運命が変わります。」「善き思い」を持つと運命が好転するという現象は、人を助けるような美しい思いが宇宙の法則に叶っているということ、まず念頭に置き、是非皆さんがその思いを持って、質の高い優秀な人材をロータリーへ導き入れて頂きたいと思っております。

これが、グローバルな視点から考えますと、世界中のロータリークラブが同じ意識を深めたとしたら、もっともっと素晴らしい展開が開かれて世界平和に繋がることと思っております。これにより、ロータリーにとっての会員増強が「ロータリアン最大の奉仕であり、責任である」こと。そして、ロータリーの最大の財産は「ロータリーの会員である」ことの意味がお分かりになられたことと思っております。私達ロータリアンは、良き評論家でもなく、良き解説者でもなく、良き実践者でなければなりません。昔のことわざに「知ってても遣らないのは知らないのと同じ」とか「論語読みの論語知らず」とか申しますが、クラブリーダーが常に会員の考え方や意識を良い方向へ導く努力をするということが大切ではないかと思います。



続いて、当クラブがクラブ全体の考え方や意識を変える手法等としてCLP導入について皆さんと振り返ってみたいと思っております。

まず、クラブリーダーが、常に自分のクラブがどのような状態かを知ることが必要であろうと思っております。つまり、ロータリーの運営を考える時に、自分のクラブはどんな特徴を持っていて、何処に長所があり、又、何処にや欠点があるのか、そして、その問題個所をどのように修正したらよいのかということです。

ところが、その問題個所を的確に、そしてまた客観的に評価する方法というのは実に難しいこととございまして、科学的或いは計量的物差しになる基準と言うものがロータリーには無かったのではないかと

と思います。それが為に、毎年、“例年並み” “当たらず触らず”の基本方針が中心であったことは否定できないことであります。

又、ロータリーに“変えなければならぬものと、変えてはならないもの”があるという常習的な言い回しの中に“変えて波紋を起こしたくない”というある種の詭弁が入っていたように思えてならないのは私だけではなく、会長経験者の皆さんならば一様にそう思われたのではないのでしょうか。

先日行われました会員増強・職業奉仕合同セミナーで、講師の江崎柳節PGがジョークでおっしゃられておりましたが、「ロータリー殺すにや刃物は要らぬ、例年通りにすれば良い」、それから「ロータリー奉仕が無くてバッチだけ」、誠に見事に皮肉ったものであり、また的を得たものであります。

私は、CLPはロータリーの組織運営におけるISOのようなマネジメントシステム的な要素があると思います。この一つのファクター（要素）としてクラブ並びに各委員会が継続的改善、つまりPlan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（見直し）を繰り返す行うことによって、次のクラブ活動や委員会活動の見直し・反映が確実にでき、そして、常にスパイラルアップ（螺旋状に向上）するところにあります。

もっと簡単に申し上げますと、常に遣ったことに対して評価、見直しを繰り返して、常に向上させようとする方向へ導く方法（仕組み）と言う事になります。つまり、クラブの全会員が物心両面の満足を得るための手段でもあります。

その結果、当クラブで得たものは、①まず会員の皆さんが、変化に適応するべく、その変化を受け入れようとする気持ちに大きく意識が変わったということです。それに続いて、②意識の変化により、会員相互の絆が強くなりまして、クラブを良くして行こうという気運が高まるにつれて、この機に乗じて、これからのクラブの将来を見据え、進歩、発展を願い、クラブ名称の変更をすることの採択をし、クラブ名称を変更する運びとなるまでになったことです。それに続いて、③当クラブ区域限界の山武市、芝山町、横芝光町の1市2町の市長、町長さんが当クラブの気概を感じてくれて名誉会員に就任してくれたこととございました。従いまして、常に朝令暮改の精神で全会員が積極的にロータリー活動に参加することにより、そして、クラブ会員の皆さんに何度も以下のようなことを申し上げてまいりました。

CLPのねらいは、クラブの体質強化、クラブの活性化であること。活性化、体質強化には様々な取り組みがありますが、待ちの姿勢では活性化にはならないこと。やはり奉仕に係る親睦や活発な会員間のコミュニケーションにより、会員の皆さんの達成感や満足感が得られなければ、いつしかメッキが剥がれてしまい、元の黙阿弥になってしまうこと。「継続は力なり」であり継続的改善を繰り返し繰り返し行うことが大事で、常に積極的な姿勢を持ち続けることを忘れないで頂きたいということ。

以上の様なことが、当クラブがクラブ全体の考え方や意識を変える手法等としてとったCLP導入前後の流れではなかったかと思えます。これからも、鈴木会長を中心として常に積極的な姿勢を持ち続け、積極的なロータリー、活性化したロータリー、クラブリーダーが育成されるロータリーを築いていただきたいと思います。

## ■ ニコニコボックス

内田裕雄君・富一美君・鈴木恭一君・押尾正康君  
・倉石昌治君・橋本貴志君

…ニーナさんようこそいらっしゃいました

Nice to meet you

小林定雄君・大塚克人君

…仕事多忙でありありがとうございます

本日計	8,000円
累計	172,000円

## ■ 出席報告



例会日	会員数	出席	MU	%
8月20日	47	36	11	100.0

☆ 欠席をしたらメイクアップをしましょう ☆



本日のお客様 平山未咲さんとニーナ・シュベリさん